

令和元年度 住民向け研修会

『障がい者も住みやすいまちづくり』  
～豊かな地域生活を送るために～

当日の記録

令和元年12月4日（水）18時30分～20時30分

竜王北部公民館4階ホール

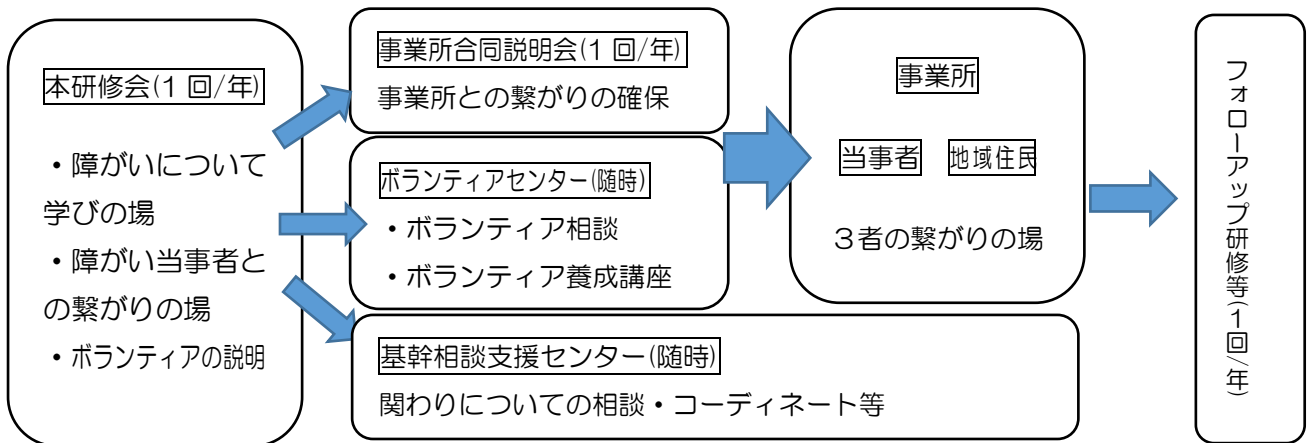
社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター

## ○開催目的

障がい者週間のイベントの一つとして、地域住民に対して障がいに対する理解を深めること。また障がいがあっても地域で豊かな生活を送るためには何が必要かを共に考える場とする。そして、この研修を通して社会資源についての理解を深めると共に、ボランティア活動に興味を持っていただき、今後のボランティア活動の活性化と、障がい者の地域生活を支援することを目的とする。

### ※イメージ図



## ○当日スケジュール

18:30 開会 (司会：基幹相談支援センター 菅沼愛子)

センター長挨拶 (基幹相談支援センター長 飯室崇)

18:35 講義

『地域福祉の役割と意義について 今、地域住民に求められていること』

講師：山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科 高木寛之先生



18:50 当事者の発表

① 川手さん『私の日常』

② 城戸さん『今の私、これからの私』

19:15 グループワーク『豊かな地域生活を送る方法を考えよう』

19:50 情報提供 基幹相談支援センター、ボランティア協議会

20:00 グループワーク発表、講評

20:30 閉会

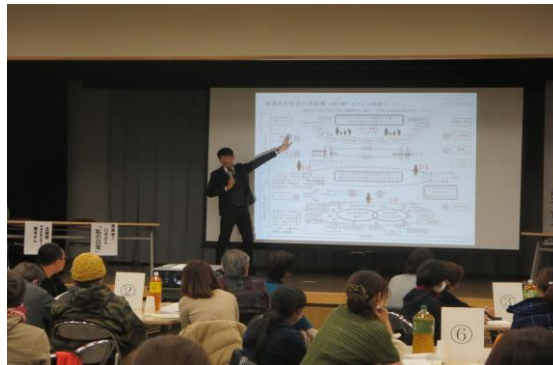


## ○内容

### ・講義 『地域福祉の役割と意義について 今、地域住民に求められていること』

講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 高木寛之先生

地域共生社会とは、民生委員や自治会、企業・商店、地区社協、社会福祉法人など地域の関係機関が一体となって課題解決をしていく社会のことである。そこには専門職も含まれる。課題を抱えた住民は受け手（当事者）と支え手に分けられるが、この関係が固定される訳ではない。受け手となる人は助けて欲しいことを伝えるだけでなく、自分には何ができるのかを考えて欲しい。



障がいの有無に関わらず、地域の中に「居場所」と「出番」が必要。「居場所」は家庭や職場など、他者との関わりの中で生まれる「社会的居場所」と、公園や思い出の場所など安らぎを覚えたり安心できるような「人間的居場所」の2種類がある。「社会的居場所」の中に「出番」も含まれるが、「出番」が就労だけになっていないか、他にも「出番」がないかを考えてもらいたい。

### ・当事者の発表

#### ① 川手さん 『私の日常』



就労継続支援B型を利用し農業の仕事をしています。夕方は地域活動支援センターで自由な時間を過ごしています。趣味はカラオケと茶話会、ウォーキングです。

今後の目標は、農業全般の技術を身に付けることで、夢は農業の指導をするアシスタントスタッフになることです。ピアサポーターとしての活動もしていて、県からの委託を受け、入院している人の退院促進のための手伝いもしています。ピアサポーターの活動を通して、住民の皆さんに知って欲しいことがあります。

障がいを持っている人に対し、「病気だから」という理由で偏見の目で見ないで欲しいです。また、家族の理解や支援が必要です。そして、「障がい者だからできない」と決めつけしないで、人それぞれ得意分野があることを理解してほしいと思います。

→ピアサポ、地活、茶話会、ウォーキングなどが本人の「居場所」になっている。支援者、専門職にも分からないことはある。地域で見せる川手さんの困りごとを、地域の方から専門職に伝えて欲しい。

## ② 城戸さん『今の私、これからの私』



小学生の頃に椅子を引かれて尻もちをつき、病気を発症しました。その後、精神疾患も患いました。車いす生活は不便なことがたくさんあります。手すりの位置、引き戸バスの事前予約が必要等、たくさんあります。良いことは地域交流が増えたことです。道路の段差に埋まり身動きがとれなくなっていた時に自宅まで送ってくれた人は、今も大切な友人です。

現在、就労移行支援を利用し、事業所でクッキー作りをしています。来年には一般就労を目指しています。

最近までは、ここまで体が動くようになって就労もできるとは思っていませんでした。忙しい毎日が嬉しく、不思議に感じています。遠回りをしたが、同世代に追いつくくらい仕事を頑張りたいです。生活面では一人暮らしをしたいと思っています。

→支援者として地域との関わりで良かったエピソード（基幹相談支援センター小野）

県外から転居され、車椅子で生活している人が1人暮らしを始めました。地域の民生委員の方に話をしたところ、民生委員から区長や組長に話をしてくれ、訪問もしてくれました。近所の交番の警察官にも話してくれました。台風19号の時には、区長が様子を見に行ってくれ、地域の方の見守りがあって現在生活を送っています。

## ○グループワーク「豊かな地域生活を送る方法を考えよう」

①



・車椅子で移動していると、クラクションを鳴らされたり、窓を開けて罵声を浴びせられたりする。地域の方に理解してもらうことから始める必要がある。

②



・聴覚障害者が参加。台風時情報は入らなかった。要支援者台帳の情報が入ったら民生委員は自宅を訪問して欲しい。  
・日頃の近所付き合いを大事にし、助け合って生活することが必要。



③



- ろう者の方が参加。地域の方が交流したいと思う気持ちが必要。色々な方法でコミュニケーションはとれる。
- ひきこもりの人や障がい者、地域の方が集える場所があると良い。

④



- 農福連携について話をした。知的障がい者は覚えるのに時間がかかるが、覚えたことはできる。
- 発達障害者はコミュニケーションが苦手。就職に対しての支援や学齢期の支援が大切。
- 地域の中で偏見や思い込みを取り払い、目を向けることが大事。

⑤



- 心のバリアフリーが必要。
- 避難訓練や地域活動を通して、地域の方に知ってもらうことが必要。
- それぞれの得意分野からきっかけを作り、地域に発信していくことが大事。

⑥



- 視覚障害者の方が参加。声をかけて欲しい。一方で、声をかけてはいけないという思いもある。
- 交流する場の確保が大事。見えないことも大変だが、見えないことを知ってもらうことが大変。参加不参加や迷惑などは考えず、機会を設けたり働きかけを続けたりすることが大切。

⑦



- ・趣味、仕事共に充実しており、豊かな生活を送っている。
- ・見た目には分かりづらい障がいのため、地域の方に相談をしてもその先に繋がらない。
- ・地域の理解と交流を続け、障がいがあることを知ってもらうことが大事。

⑧



- ・グループホームに入所し、就労継続支援 B 型を利用している 2 人が参加。住民の方は福祉サービスについて分からないので、周知していく必要がある。
- ・電車を利用して外出したり、外食に行ったり、趣味を楽しんだり豊かな生活を送っている。

### 【講評】（高木先生）

障がいがあって「困っている」ことだけでなく、「充実している」人もたくさんいる。このような人の出番をどのように作っていくか。「困っている人」と繋がったら、その後困った人に固定するのではなく、「地域活動と一緒にできる人」として繋がって欲しい。

### ○情報提供

#### 基幹相談支援センター

敷島保健福祉センターの社会福祉協議会の中にあり、障がい者とその家族の総合的窓口になっている。民生委員や地域の方からも相談を受け付けている。福祉サービス、就労、不安や医療関係の相談、就学や家族関係など、幅広く相談を受けている。ひきこもりの方の相談窓口にもなっている。

#### 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市ボランティアセンターでは、令和 2 年度から、事業所が求めるボランティアとして施設ボランティアの養成に力を入れていきたい。6 月に養成講座の呼びかけ、7 月から 9 月にかけて年 5 回の講座を予定している。障害の理解、関わり方などを学び、11 月から施設ボランティアをスタートする。今回の研修からボランティア活動に繋がって欲しい。

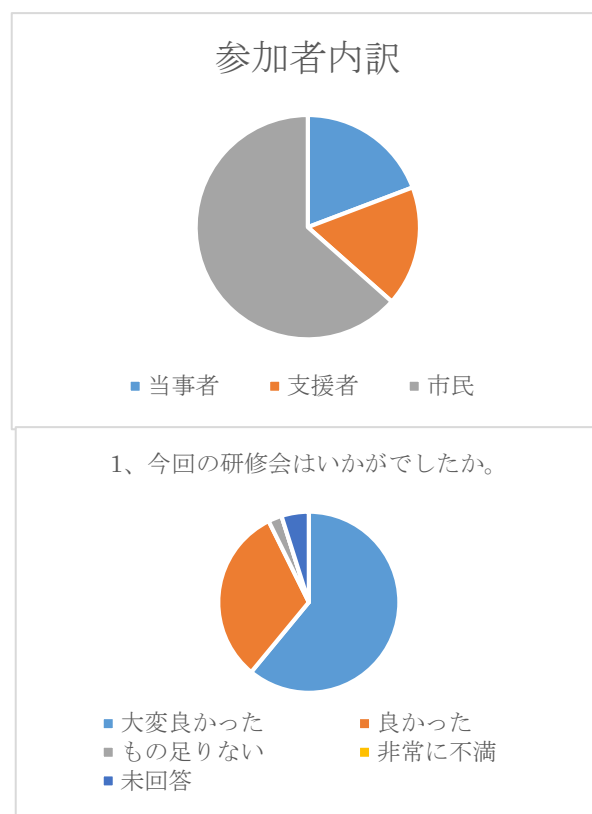


## ○アンケート集計結果（申込人数：62人、参加人数：52人）

アンケート回収数	41
アンケート回収率	79%

### ・参加者内訳

当事者	10
支援者	9
市民	33



### 1、今回の研修会はいかがでしたか。

大変良かった	25	61%
良かった	13	32%
もの足りない	1	2%
非常に不満	0	0%
未回答	2	5%

### 【大変良かった・良かった理由】

- ・講演、事例、グループ討論、発表の内容構成が良かった。
- ・グループでの話し合いがとても具体的で実際的な話し合いができてよかった。
- ・自分の思ったことを発言できる機会があったこと。
- ・なかなか障がいを持った方の意見を聞くことがなかった為、意見を聞くことができて良かった。
- ・当事者のお話を聞かせて頂いて、とても良かったです。
- ・知らなかったことをたくさん知ることができました。
- ・支援者や当事者の日頃感じていることや思っている事、どのような事で困っているか直接聞いたこと。
- ・障がい者も参加してグループごとに分かれ、話ができ勉強になりました。
- ・障がいを持っている方の話を直接聞ける貴重な機会が良かった。
- ・いろいろな立場から意見等が出て良い交流ができたと思う。
- ・コーディネーターの高木先生の話が分かりやすく聞きやすかった、生の当事者や民生委員の話が聞けたこと。
- ・初の民生委員でしたが、当事者のことが良くわかりました。
- ・体験を通して、本人の気持ちや毎日の生活状況など詳しくお話を聞かれたことが、とても参考になりました。
- ・声掛けに関して躊躇していたが、当事者より「声をかけて欲しい」とのことで良かった。

- 当事者とその家族、健常者といろいろなケースの方の意見交換できたのが良かった。
- いろいろな方に障がいを知ってもらい、こういう場で一般と当事者の会話ができて良かった。
- 相談支援の専門職として、地区での障がい者の人との関わりを深め、理解と交流をしていきたい。
- 民生委員活動としてこれからの参考にしたい。
- 自分を知っていただける素敵な機会になり、とても嬉しかったです、ありがとうございました。
- 当事者の話を聞くことができ、心のバリアフリーが大切であると感じました。
- 普段使っている資源などは一般の人には浸透していないということが知れた。
- 少しでも現況を知ることができて良かったです。
- 当事者がどうしたらより良い生活ができるのか考える良いきっかけになり、多くの人が考えて下さることが良い環境を整えることに繋がると思います。
- 障がい者の話を初めて聞くことができた。

### 【もの足りない理由】

- 各テーブルでのテーマがわかりづらく総合的な理解が十分にできなかった。

## 2. 今後の生活で障害を持つ方とどのような関わりができると思いましたか？

- 声かけ、地域での交流会。
- 障がいがあるなしに関係なく、これからも皆さんと楽しめる機会を作ってもらい、お互いに勉強になるようにしていきたい。
- 災害が起こりそうな時の声かけなど。
- 積極的に声掛けをしていきたい、意識しすぎず普通に話しかけると良いです。
- 障がいのある方がいるかどうかを知ることからが始まるかと思いました。
- 考え方を変えていくのが良い。
- 優しく接すること。
- 気軽に声をかけてサポートできたらと思います。
- ちょっとした手助けをきっかけに交流が生まれれば良いかなと思います。
- 交流するのが大切で終わらず、理想を現実に変えていければ良い。
- 民生委員には、だいたいのは隠さずに話をして欲しい。
- 積極的に声掛けをして、交流の機会を作っていきたい。
- 今以上にいろいろな障がいに対応していけると思う。
- 共に住む地域の住民として共に励まし合い、付き合っていきたい。
- 障がいの理解と声掛けの勇気が必要。
- 心からの支援をしていきたいと思いました。



- もしかしたら、声を掛けることができるかもしれないと、ふと思った。
- 困っている方がいたら支えてあげられたらと思います、高木先生の話から本人が役立っていると感じられる環境づくりができたらいと思いました。受けるだけではなく「出番」があると充実感のある生活ができると思いました。
- 地域のコミュニケーションはどうしていくのか？
- 一歩踏み出して、積極的に関わりたいと思います。

### 3. 今後の研修会開催において、事務局への要望やご意見等ご自由にお書きください。

- 大変有意義な研修会でした。
- 今日はとても勉強になりました、良い企画をありがとうございました。
- いろいろな障がいのある方と話してみたい
- 福祉事業所から一般就労に移行する時にどのように気持ちを切り替えたか当事者から話を聞きたい。
- 就労した後の支援について聞きたい。
- 年2回くらい研修会を開催してもらいたい。
- 皆にわかってほしいので、各自治体での開催にしてはどうか？
- 今後も是非とも続けていただきたいと思います、地域活動の様子もたくさん聞きたいです。
- 今のまま多くの回数を開催して欲しい、障がい者の発表もいろいろな方の話を聞きたい。
- 相談支援についてさらに研鑽を積んでいきたいので研修会を希望する。
- 設定されている「地域」が時間・空間・要素を欠いているため、コミュニケーションが善とされる様に考え、多少戸惑いを感じている。
- 各自治体への出張講義などはどうか？
- これからもこのような機会があると嬉しいです、協力できる形を考えていければと思います。
- 障がいのある人の立場になって物事を進めて欲しい。
- 身体的、精神的どちらに重きをおいて対応するのか、身体的は外見で分かるが、外見では分からない障がい者が隠れている人をどのようにサポートするか。
- 障がいを持った方々が集まる際には、盲導犬がいることを知らせて欲しい、今回は席が離れていましたが、動物アレルギーがあるので同じ席では辛かったと思いました。

### 4. 事務局からのボランティアについての情報をお届けすることを希望されますか？

希望する	11	27%
希望しない	12	29%
未回答	18	44%

☆アンケートにご協力いただきありがとうございました。

## 事務局より（障がい者基幹相談支援センター）

当日はたくさんの方にご参加いただきありがとうございました。2人の当事者の方の発表を通して、障がいを持ちながら、地域でどのような生活を送っているのかを知っていただく機会になったのではないかと思います。また、グループワークではそれぞれ活発な意見が出され、知る大切さ、お互いが交流を持とうという意識を持つことの必要性など、お互いの距離感を縮める話し合いができたのではないかと感じています。また、障がい者を困っている人という位置づけだけでなく、その人と共にどう地域作りを行っていくかを考えていくことで、誰もが住みやすい街作りに繋がると思います。

ぜひ、今回の研修からボランティア活動にも興味を持っていただき、ボランティア活動へ積極的に参加していただけると嬉しく思います。

また、地域で障がい者やその家族、ひきこもり等の困りごとがありましたら、基幹相談支援センターをご利用ください。

報告書作成者

社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター

坂本 大輔・菅沼 愛子